事例No.	1301
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	奈良県下北山村

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

下北山村「森で育む学生拠点創造プロジェクト」～都市部の学生による地域資源を活用した課題解決型関係人口創出・拡大事業～

出典

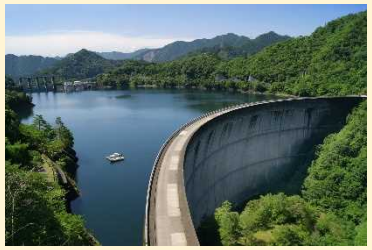
関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

地域の概要

地域名：奈良県吉野郡下北山村
人　　口：８９０人（２０１９年）

- 下北山村は紀伊半島の南部、奈良県の最南東部に位置する、人口890人の村である。
- 村の西部には、大峯山脈の峰々が縦走しており、2004年に世界文化遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つである「大峯奥駈道」が存在する。古くから山岳修行の地として多くの人が訪れ、日本独特の信仰の原点となってきた。また、近畿最大の人造湖「池原ダム湖」を有し、ブラックバスフィッシングの聖地として多くの釣り客や、山々に囲まれた自然豊かな場所としてキャンプなどのアウトドアを楽しむ観光客が多く訪れる。
- 主な特産品
  下北春まな、南朝みそ、じゃばらなど。



解決したい地域課題

- 林業の衰退を背景に、人口減少・少子高齢化が進み、地域の担い手が不足。
- 昭和３０年代頃に植林した木が成長し伐採期を迎えているが、木材価格の低迷から木の活用が課題となっている。また、都市部への人口流出に伴い、空き家の増加が課題である。

本事業に取り組むに至った背景

- 関係人口創出事業「奈良・下北山むらコトアカデミー」卒業生からの提案と村の地域活性化への取組みが合致したため。
- 地産材を使ったDIYでの空き家リノベーションを行うことで、関心のある学生が集い、地域活性化に繋がるよう、学生、役場職員、林業関係者、住民が協力一致して本事業に取組むことにした。

2. 事業概要

●事業概要

＜ターゲット＞
- 都市部に住む地域づくりに関心のある学生

＜概要＞
- 関係案内人を中心に、SNSや大学ゼミなどで呼びかけ、関係人口には、村で地域住民との交流イベントへ参加してもらう。さらに、地域資源の活用のために、山林資源の調査や林産加工所での体験を通じて地域を知ってもらう。
- 関係人口には、再度来訪してもらいDIYによる空き家リノベーションに参加してもらう。

＜実施事項＞
- 関係案内人による説明会（１回）
- 任意団体「まとい」 発足
- 現地調査ツアー（２回）
- DIYによる空き家改修へ参加（３回）

●地域の理想の姿

- 山林資源を活用した空き家リノベーションを、関係人口と地域住民が協力することにより、空き家の減少や地域コニュニティの強化に繋がる。更なる都市住民と地域住民の共助による課題解決に取組むことにより、地域の担い手人材の確保や、地域が活性化する。

●本年度の目標

- 任意団体「まとい」メンバー１０名
- 現地調査ツアー参加者２０名
- DIYによる空き家改修参加者１０名

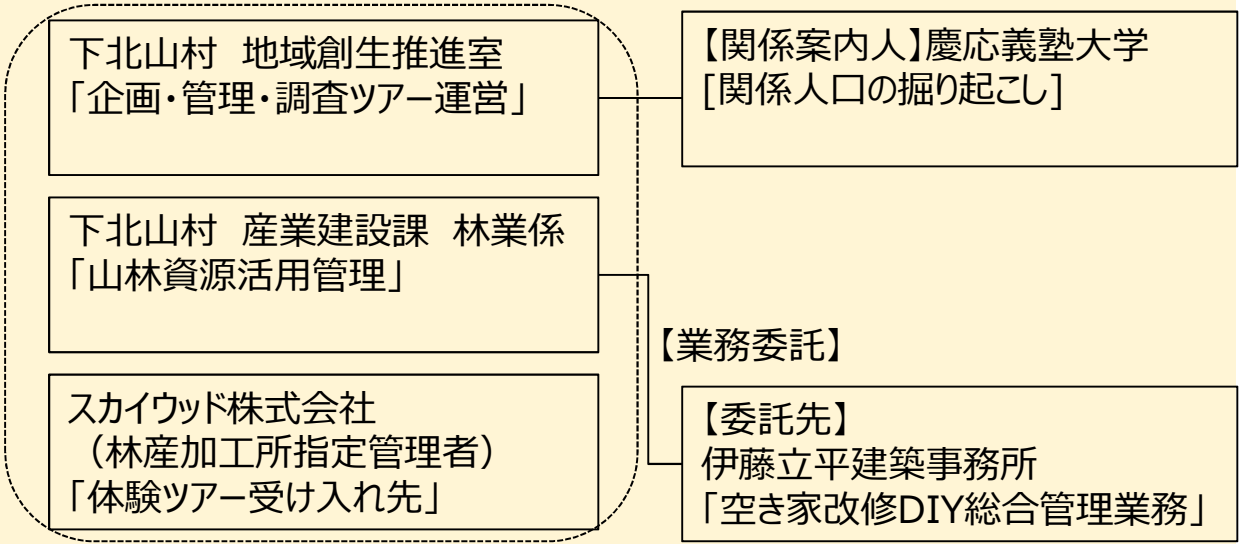
●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 未来を担う若者層を関係人口とし、村内の山林資源を活用し、空き家を改修して学生の拠点を創ることで、今後継続的に関わる学生の関係人口創出と、本事業に共感する関係人口を呼び込むための一歩としたい。

3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

- 下北山村が企画・管理・運営を行い、林業課、地元の林産加工所などと連携して関係人口を受け入れ。
- 別事業において既に関係人口であった、慶応義塾大学の学生と連携し、地域活動に関心のある学生の掘り起こしを行った。



●スケジュール

実施事項		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	【森と育む学生拠点創造プロジェクト】 実施体制構築				関係案内人との調整 役場内プロジェクトチーム編成																													
2	【森と育む学生拠点創造プロジェクト】 参加者募集				参加者募集																													
3	【森と育む学生拠点創造プロジェクト】 現地実習																																	
4	【森と育む学生拠点創造プロジェクト】 空き家DIY・ミーティング																																	

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

- 都市部に住む、地域の課題に関心のある学生
- DIY作業に関心のある学生
- 関係案内人の慶応義塾大学の学生を中心とした、首都圏に住む大学生を主なターゲットとした。

●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 元々「奈良・下北山むらコトアカデミー」という、関係人口創出事業に取組んでおり、その卒業生から村の課題解決に貢献したいと相談があった。更なる関係人口の創出を目指す本村にとって、地域の担い手となりうる学生は貴重な存在であり、本事業の申請を行った。
- 近年のDIYブームや地域で学びたい学生の存在が増えていることから、空き家リノベーションに関する関係人口の創出には需要があると考え、ターゲットの設定に至った。

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】
- 関係案内人、慶応義塾大学の学生を中心とした、SNSでの募集
- 村役場でのSNSによる広報

【成果・効果】
- 関係案内人の学生によるSNSでの呼びかけに対しては、首都圏３つの大学から３名の参加があった。また、関係案内人の個別呼びかけによる参加は慶応義塾大学から４名であった。しかしながら、学生DIY管理の委託先である伊藤建築設計事務所の個別アプローチにより１０名が参加。
- 村役場の広報では、関西圏の大学生が８名が参加した。



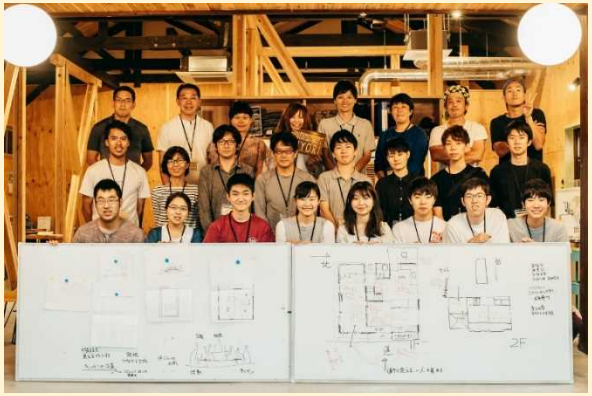
5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

《現地体験ツアー》
【日程】 2019年7月 6日～７日
　　2019年8月20日～26日
【参加者】21名
●関西圏、関東圏の大学生が村の住民のお宅訪問や村の山林資源について見学。
●地域で活動するにあたり、知ること・知ってもらうことを中心に体験ツアーを行った。
●製材所での木材製材の現場見学や、皮むき、薪割りといった、田舎ならではの体験を実施。
●「地域にとって必要とされる場所」についてワークショップ形式で話し合い。

《空き家改修DIY》
【日程】 2019年9月9日～15日
【参加者】13名
●現地体験ツアーの参加者や新たに興味を持った学生により、空き家の内装解体作業を実施。住民と共に取り組むことを大切にした。
●地元中学生との交流を実施し、学生の活動をより地域に浸透させていく取組みを行った。







6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- 説明会参加者：20人（20人）
- 現地体験ツアー：21人（10人）
- 空き家DIY：13人（10人）

✓ 空き家DIYを入り口に、地域に関わりたい学生が一定数集まったことで、事業がスムーズに実施できた。
✓ 現地体験ツアーにおいても、他部署との連携により目標値を上回る参加者に対応できた。

●関係人口の地域との関わり方

- 家族を連れて再度自主的に来村した参加者や「大学を卒業したら村で起業の準備をしたい」という学生も現れた。また、来年度も継続的に関わり、「都市部で村のPRがしたい」と前向きに関わってくれている。



●その他の成果

- 本事業を通じて空き家の利活用が進み、地域住民の方々から喜びの声が多数あった。
- 空き家改修に使用する村産材を、林業に取組む若手メンバーが伐り出すことで、技能の向上に繋がった。
- 関係人口の事業を部署横断的に行うことで理解が進み、別事業においても連携が取りやすくなった。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜地域住民の理解＞
- 住民向けの説明会を学生と担当職員、委託業者と共に行ったが、一部学生の活動について理解が十分に得られていなかった。
- 個別で関係人口の取組みや、学生の取組みを丁寧に説明を行った。

＜来村メンバーのモチベーション＞
- 参加者によって想いや取組み姿勢が異なる中で、同じ作業や体験をすることに不安を感じる場面が多かった。
- 参加者のモチベーションを上げたり、学生の意見や話しを聞きアドバイスをするメンターのような人材を配置した。

●今後の課題と対応方針

- 今回の参加者が今後も自主的に村と継続的に関わることが理想であるが、交通費などの負担があり、モチベーションをどう保っていくかが課題である。また、地域の受け入れについても、学生の受け入れをする人材が偏ることなく、地域全体で受け入れていくよう関係人口への理解を深める取組みが必要である。
- また、現在関係案内人の立ち上げた学生団体が継続的に運営できるよう、下級生に声掛けを行っており、下の世代に引継いでいく様な仕組みづくりを行っている。

8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 本年度創出した関係人口には、来年度以降も空き家での交流イベント企画や都市部での村のPR活動に関わってもらう予定。また、村で個別で活動したい学生と村の政策で一致する部分（木を生かした地域活性化）においては、村でもサポートし関係人口として継続的に関わりを持っていきたい。本年度の関係人口の活動がより多くの都市住民の目に留まり、第二の関係人口として関わってくれる人を創出していく。



●「関係人口」施策の展望

- 本年度「空き家改修」と「資源活用」をテーマとし「学生」をターゲットに取組むことで、関係人口による活動が地域内での他事業へ相乗効果があったと考える。自然資源に恵まれる村では大きな産業がなく移住・定住におけるハードルが高い。そういった状況から関係人口が地域にもたらす影響は大きく、間口を広げて地域の担い手を発掘していくことが有効である。地域内と地域外の力を上手くマッチングさせることで持続可能な村の発展につなげていく。